

～令和5年度飛騨市公民館講座開催レポート 第3号～

【インテリアとして楽しめる！こけ玉作り講座】

7月9日(日)に、郷土民芸会館と神岡町公民館にて開催しました。古川会場で17名、神岡会場で4名の方が参加しました。講師には、造園業を営んでいる林 賢司氏をお迎えしました。

こけ玉とは、適した粘土状の土(ケト土)で植物の根を団子状に包み、その周りにこけを張り付け、こけがはがれないように木綿糸で巻いた観賞用の植栽です。今回の講座では、モミジとシノブの2種類の植物を使って、2つのこけ玉を作成しました。完成した2つのこけ玉をお皿の上に乗せ、微調整をしたら、お部屋に飾って楽しめるこけ玉の完成です。今回のお皿は、飛騨吉城特別支援学校の生徒が作成したものを使いました。



こけ玉は、たくさんの水を必要とするので、こけ玉が乾いたらたっぷりと水やりをします。こけ玉を持ち上げて軽くなっていたら水のやり時で、大体1～2日に1回程度だといわれています。乾いたこけ玉を水の中に沈め、プクプクと泡が出なくなるまで水につけます。また、長持ちさせるためにはできるだけ自生環境に近づけて育てる必要があります。室内の柔らかい光が届く場所に置くことが良く、夏の直射日光や冷暖房が当たる場所は避けた方が良いでしょう。

参加者の皆様には、自分で作ったこけ玉をお皿と共に持ち帰っていただいたので、長く大切に育てていただきたいです。

